

平成20年9月

[配布先：全組合員]

市場情報

「日 時」 平成20年9月8日（月） 正午
「場 所」 東京鉄鋼会館
「出 席」 酒匂委員長他24名(最終頁参照)
「経 過」

1. 委員長挨拶

市場委員長 酒匂 雅信

厚板需給、下期は更にタイト化

ようやく厳しい暑さの日々も終わり、涼しくなってきましたが、日本の景気の冷え込みは建設業のみならず一部の製造業にも忍び寄って参りました。我らが強い味方「冷鉄源」すらもシャリング組合員を見捨てる素振りをし始めたことは、許せざる事態になったと思います。

しかし一方厚板需要は造船を筆頭に建産機、橋梁、大型建築プロジェクト、重電等で衰えを見せておりません。海外需要も韓台中の造船、大径管向厚板等需要は相変わらず堅調で、内需に対してだけでも厚板供給は2百万トン/年の不足状態は変わっていません。

また高炉メーカー、電炉メーカーもそれぞれ各社特有の事情があり、今下期から来年上期の間に製造面のネックや供給面での事情から、店売りのみ

らず紐付きにおいても販売量を縮小せざるを得ないとの報道もあり、9月以降の厚板のタイト感はますます高まると予想されています。

店売り分野の中小建築鉄骨や土木は昨年同様の低水準であるが、下期は信用縮小と言う不安が増大しており、心理的にも前期以上の不況感が出てくると思います。

色々書きましたが、全鉄連の調査でも厚板だけは未だにD I値が75で、極厚に至っては未だ100で、ほとんどの人が不足感を持っておられます。他の鋼材に比べ2倍以上のD I値を未だ維持し続けているのは厚板だけであり、しかも来年もこの状態が続くという、恵まれた環境を生かし、出来るだけ輸入材の影響の少ない規格材の扱いを増やす努力を目指すべきと考えます。シェアリング組合は今年も昨年に引き続き正しい規格をユーザーに販売する活動を推進しております。

今年も我々会員の米、「厚板」を信じてシェアリング、切って切って切りまくります。そのうち「鉄冷源」もまた強い味方になってくれると思います。

2. 各地区の需要動向

北海道

歯抜けサイズ拡がる

世界から注目された洞爺湖サミットも無事終了しました。主要テーマであった地球温暖化の影響か、洞爺湖サミットへのアピールなのか7月はじめから真夏日、夏日が連続、58年振りに記録更新、今年は暑い夏のスタートになりました。

北海道経済は残暑も無く早々と秋風、国や道を筆頭に各市町村の厳しい財政事情を反映し、雇用情勢、消費や設備投資の低迷により、名門、老舗ゼネコンが相次いで行詰り、土木・建設・鉄鋼関連企業に大きな影響を及ぼし、

信用不安の一層の増幅により厳しい状況にあります。

〔鉄 骨〕 北海道地区建築統計による1月～6月の鉄骨推計は10万6,500トンで前年同期比2.3%増となった。今年の道内鉄骨需要は、Hグレードファブについては道央を中心に大型物件が相次いで発注され首都圏大型物件も加わり、需要量としては例年を大幅に上回り、先行きの山積み調整と材料高騰の中での、材料先行手配に苦心している。

一方、中小物件は、鋼材などの原材料の高騰と品不足により、計画の見直し、工事の延期や中止、他工法への変更により中小ファブ向の物件は地方を中心に少なく、Mグレード・Rグレード以下は一部を除き先行き山積み確保に苦勞しており、大手ファブと中小ファブの二極化現象は一層拡大している。

この様な状況下、各ファブリケーターは材料確保と、値上げ転嫁による適正利潤確保、ゼネコンの信用不安増幅に対する与信管理を確実に実行することが最大の課題である。

〔橋 梁〕 平成20年度における北海道の内橋梁需要予想は2万4,600トンであるが、道を筆頭に各市町村の財政事情に加えて、北海道開発局等の、談合問題発覚で発注が危ぶまれていたが、順調に入札発注が進んでいる。しかしながら素材高騰にもかかわらず、相変わらず低入札や道発注工事は以前に比べ引き上げられたものの、最低価格でのくじ引きもあり、受注単価は厳しい物件もある。各ファブ共にメーカーロールのタイト化により素材納期の長期化、遅れから加工工程にずれが出、調整に苦慮している。

又、橋梁耐震対策、補修、補強材については計画どおり発注が期待されるが、メーカーロールは更にタイトさを増しており、橋梁材、補修材共に鋼板の確保と価格転嫁が最大の課題である。

〔切 板〕 道央圏中心に大型物件が相次いで発注され、加え、首都圏の

大型物件の受注加工により、各シヤー業者とも、切板受注、加工数量、販売価格、稼働率にバラツキはあるものの、高水準に安定操業が続いている。

しかしながら、メーカーの引き受け枠カット、納期遅れ、枠振り替え、母材立替などにより在庫が大幅に減少、特にSS400 6、9、12mmや各規格共ベースサイズを中心に歯抜けサイズが増えており、市中品手配の増加により納期遅れや素材価格の上昇、副資材、消耗品、輸送費等の高騰によるコストの大幅な上昇による成品価格への転嫁で、中小ファブを中心に、特に店売りの分野で顧客の要望に応えられない状況になっている。

今年後半も道央中心に大型物件が目白押しだが、今後メーカーロールはより一層タイト化が強まるなか、受注物件の厚板母材をいかに確実に確保するか、又、厚板母材の値上げ及び、諸資材値上りによるコスト上昇分を切板受注価格に確実に転嫁と適正利潤を確保するとともに、改正建築基準法の影響や鋼材など諸資材の高騰等による建築業界の不況により、鉄鋼業界でも与信リスクが一層高まっており、与信管理を確実に実行することが大きな課題である。

〔建築用鋼材〕 切板の品質(トレーサビリティ)管理の確認。

最近、鋼板の受け入れから厚板母材・残材の管理、切断工程・切板出荷迄の作業内容・識別及びトレーサビリティ管理体制の確認の為、各々の物件ごとにファブの立会いの下、立ち入り調査を受けることが多くなった。

(玉造株)・西村卓也)

東 北

格差歴然

8月のお盆が過ぎて、例年よりは早くに涼しくなり、雨模様の日が多くなっています。各地での集中豪雨で増水・土砂崩れ等の被害が続いていますが、逆に四国地方では台風が少なく水不足に悩んでいるようで、この先何か不安

な気候です。

東北地方は相変わらず大型プロジェクト中心で、シヤアの稼働も90%前後とフルでは有りませんが、大型プロジェクト物件、製缶向を主に稼働しております。

しかし、中小物件が低迷している中、地場ゼネコン・ファブに対して与信の不安を抱え、販売額上限を設けながらの取引となっています。

切板価格では、材料の値上りを受け小物の2kg以下、一枚単価売りの価格を見直しております。

今後も、東北では大型プロジェクト物件が続き、東芝北上、セントラル自動車のゼネコンも決定し、地場ファブでの加工も決まりつつあり、Hグレード以上のファブでは来年夏ごろまでの山積みは満杯の状況です。

母材の入荷状況は、電炉材で昨年末の発注分が今になって入荷して来ており助かっていますが、材料枠が厳しい中、一般案件の材料枠確保に頭を悩ませている状況です。

(J F E 鋼材・湊和志)

東 京 (書面参加)

不安要素

日中の暑さがまだ残るものの、朝晩の涼しさが季節の変化を感じさせるこの頃です。

東京支部のメーカー系建材シヤアの稼働状況は08年4～7月累計での実績は4万8千トンで前年比11.7%の生産増でした。業種別に見ますと橋梁で13.4%の増、鉄骨で10.6%の増でした。足元は橋梁の需要が高いことと、遅れていた鉄骨も出てきているので、稼働率もほぼ100%で推移していますが、この状況が下期まで続くかは不安視する要素があります。

橋梁の新規受注の入札及び受注残が需要家によって濃淡があること、ロールが厳しく受注数量に制約があることがその要因です。一方鉄骨は大型設備

投資物件の受注の本格化と首都建築圏物件もあり、来年度以降も増勢が続くと言われていますが、ロールのタイトさからくる受注の制約もあり弊社では数量減が予想されております。

また、鋼材の価格、納期の一層の厳しさから、RC構造のシフトが検討されているようで先行きが見えない。ここにきて日銀が景気判断を減速から停滞に下方修正しております。原油高や輸出の増勢鈍化などが背景にあるようですが、それと相まってスクラップ価格が急落してきているのが気掛りです。

景気の後退局面を迎えこれ以上大きく落ち込まないことを願うばかりです。

(富士鉄鋼センター・水城正博)

東京

来年上期までフル稼働

1. H20FY 4月～8月の実績

[橋 梁]

05年度の指名停止影響による物件の大量ずれ込みで、06年下期以降一貫して高水準が継続している。特に、大型橋梁が集中したこの上期は、近年でも過去最高の生産量となる見込み。

06上	06下	07上	07下	08上
24.2千ト	31.8千ト	30.0千ト	31.5千ト	33.5千ト

*9月は5千ト仮置

[鉄 骨]

首都圏の超大型案件は大量にあり、各Sファブの手持ち工事量は高い。但し、1～3月でのGCとFAB間の価格交渉のもつれから、上期の物件発注が遅れ、加工が再度本格化するの9月以降になる見込み。

[全 体]

『市場情報・2008年9月号』

一部でメーカーロール起因の稼働が空くケースはあるものの、各社ともほぼフル操業が続いている。(直近3ヶ月平均104%)

特に足元のメーカーのデリバリーが悪化しており、8月末の在庫量は、近年最低の20.5千ト(直近ピーク07年9月24.6千ト)

2. 今後の動向

[橋 梁]

FABの仕事量は充分にあり、メーカーロールさえ付けば充分に年度内～来年度上期程度の仕事は埋まる見込み。

しかし、下期から来上期にかけてのメーカーロールは、一段と厳しくなっておりFAB要望に対して大幅にカットする見込み。

[鉄 骨]

9月以降の首都圏大型案件の発注本格化、及び輸出を主体とする大手企業の大型設備投資案件の発注開始により、Sファブの稼働は来年夏～上期一杯は高水準が続く見込み。

メーカーも、鉄骨向は、著名案件であることや大需要家の工場(トヨタ・松下・東芝等)であることから、ある程度ロールをつける意向の様様。

但し、来上期以降は、大型設備投資案件が来夏で終了することや、超高層建築に於いてもコンクリート化(プレキャスト)が進むことから、極めて不透明。

強気のファブは、来年一杯～再来年夏まで超高層案件が続くと見ているところもある。

[全 体]

仕事量的には、来年夏～上期一杯までフル稼働するだけの財源はあるものの、メーカーロールが対応できない可能性が高く、材料起因で稼働に穴が空くケースが出てくる見込み。

(富士鉄鋼センター・井沢純司)

東京

産建機やや鈍化の動き

建産機は、全体的には今春以降頭打ち状況が続いた後、夏場からは生産調整を実施する業種が増加し、昨年まで続いてきた全業種にわたる拡大基調から、大きな変化を肌で感じられる状態となっている。

世界経済の先行き不透明感も相俟って今後の動向には注視が必要である。

建設機械分野は、建機工業会発表の08年度需要予測の下方修正(9%を2%)に見られるように、強気見通しは消えている。さらに昨年からの製品値上げを考慮すれば、実質前年比で減産状態になっているのではないかと思われる。

しかしながら全体に悪化ということではなく、機種別に需要のまだら模様が鮮明化し、大幅に落込んでいる都市型と言われる小型建機が全体の伸びを減殺している格好である。

一方で、大型建機、特に鉱山機械(大型ショベル・ダンプトラック)や建設用クレーンは、さらなる増産計画となっており暫くは堅調が見込まれる。

重電分野は、需要家により濃淡はあるものの、仕事量としては山積みの高い状態が継続しており、特に送電プラント向け変圧器・遮断器生産が好調。

また、大間原発や米国向け原発物件も来年早々からスタートする予定で、この部門は暫く高操業が見込まれ、中長期で見れば、世界的な原発建設計画が控えていることもあり非常に期待される分野である。

昇降機に関しては、マンション需要の低迷と中国からの鋳物輸入のダブルパンチで、前年同期比10%減と大きく落込んでいる。下期も見通しが暗く、長期トレンドではさらに減少することが予想される。

金属加工機械においても受注動向の変化がみられる。これまでの国内減を輸出でカバーと言う構図も崩れてきており、下期生産計画は前年比20%減

の需要家もある模様。国内向けは自動車業界の設備投資抑制でさらに落ち込み、輸出向けは米国発の景気減速が欧州・新興国にも波及し需要減となっている。

産機店売り分野は、旧盆前の一時的な受注増を例外として、相変わらず低調な状態が続き、足元は5～6月よりさらに悪化している模様である。

素材価格高・受注減・スクラップ安等々、難題山積みで辛抱が続きそうである。

(ニューエイジ・池田啓志)

東 京

トラックの姿もまばら

浦安地区の店売りシャーの状況は、6～8月にかけて変化なく、芳しくない状況が続いている。鉄スクラップもピークの7万円から半値に急落し、母材供給面もタイトで大幅カットされて、死活問題になっている。団地内の輸送トラックは閑散としており、ほとんど姿が見えない。今の状況からすると、秋需は全く期待できない。

(三ノ橋鋼材・角田善彦)

中小建築案件の出が不振で、中小のファブ・シャーともに非常に苦しい状況が続いている。関連ゼネコンの相次ぐ倒産で、ますます信用不安が増している。また品質証明のあり方について、シャー業界として取り組んでいるが、改正建築基準法のように突然無理難題を役所から押し付けられないよう、当業界としても充分主張しながら対応していきたいと思う。

(丸東興業・秦弘志)

新 潟

F A B の 濃 淡 ハ ッ キ リ

マンションのデベロッパーの倒産の影響などから、ゼネコンの信用力の低

下が世間を騒がせております。新潟地区の近況も、物件が無いわけではありませんが、信用不安影響や材料高から、ショッピングモールの計画が中止となり、また、市内の店舗跡地の計画などにも暗雲が垂れ込めてきています。

地場Hグレードファブの仕事量としては、関東物件を中心に、H21年3月頃までの受注残を有し、稼働も好調に推移しております。今後も高稼働が続く見込みで、鋼材の確保が今後の課題となっております。一方、Mグレード以下は全体的には低調で、閑散としたファブも見受けられ、濃淡ハッキリとした状態となっております。

地場の機械関連は、部分的に陰りの見える業種はあるものの、いまだ好調であり、増産に合わせ切板発注量も増えた状態で推移しています。

スクラップ価格は、新潟地区も下がり続け、切板収益の圧迫に影響を及ぼしています。

今後も高炉メーカーはタイトな状況が続く中、さまざまな品種を取り扱う地場特約店でも、厚板の在庫だけは減少傾向にあり、メーカーが値上げ表明していることを踏まえ、価格転嫁は、しっかり行って行きたいと思っています。

(藤田金属・多村嘉人)

東 海

仕事も材料も少なく、与信不安増す

当地区の産機向溶断業者はここにきて色々な歪みが鮮明になってきました。

ヒモ付き溶断業者は、相変わらず順調に仕事が出ていて忙しいのですが、車両建機などはメーカーから欲しいだけの材料が入らず、メーカーとユーザーと溶断業者の間でどの材料を優先するかで、毎月話し合いを持っている所もあり6月になったら材料不足も解消されると言われた件も全く解消されておりません。あるユーザーではグループで外材を購入して、それをシャヤー業者

に切らせるという話も出ています。

昇降機は中小のマンションなどでキャンセルが出ているようですが、大型物件は好調で、特注の大型物件に関しては厚板も多く使うので順調に動いています。設備関係は自動車本体のラインは少ないが、一次下請けに関しては7月～8月にかけて多く出ました。ただレーザー加工機、ワイヤーカット、放電加工機、織機などが輸出を中心として落ちてきております。

一方、店売り熔断業者の比較的規模の大きな所は、材料の種類や切断機の数などもあり、ヒモ付き業者からあふれた仕事をこなし、また自社で持っているユーザーも比較的エンドユーザーに近い為、ある程度の仕事は確保しています。ただし、比較的規模の小さな店売り業者、及び二次特約店や末端のユーザーを相手にしているところは仕事が余りなく、その日暮しが続いています。

一般店売りシヤの在庫はピーク時に比べると少なくなっていますが、危険水域には達していません。ただ他品種とは違い厚板だけは非常にタイト感が強く、下期はこれ以上に、一般店売りに対しての供給不足が続くと思われます。仕事が少ない、材料も少ない、与信も不安で一般店売りシヤの環境は厳しい状況が続きます。

(鈴将鋼材・鈴木康司)

東 海

新ステージへ

中部地区の建築需要動向については、メーカー系シヤは、大筋ではトヨタ系などの工場建物の大型物件に支えられ、今年度中の枠は埋まり、メーカーによっては来年度初頭まで受注枠が埋まっている様な状況です。

ただし物件内容については、鉄骨需要を下支えしている中小物件はかなり少なく、大型物件により鉄骨需要が支えられている状態です。そのためフリ

一のスポット物件の引合いもかなり少ない状態で、ロール対応によるプロジェクト物件が物件の大半を占めています。

厚板の供給は依然タイトな状況なので、ここ最近の需要の特徴は、今まではファブまかせがほとんどであった一般切板も、手配に支障をきたす場合もあるため、BHや形鋼、BCPと同様に物件ごとの一般切板向け素材の押えが行われるようになってきたとのことです。切板単価につきましても、急激な厚板のタイト感を背景に、値上げされた素材の入荷と共に切板販価への転嫁も順調に行われ、新旧単価の混在していた状況から、新単価へのステージとなっています。素材値上げが短期間に複数回行われた事により、切板見積りに苦慮した状況にありましたが、現状では今後の物件の見積り単価については、素材単価の値上げがあった場合にはそれを加味する条件も受け入れられる状況となっています。

足元の仕事の明細出伝状況は、急激に値上げした鋼材価格のために、建築計画の見直しや、建築単価を落とすための構造変更などを行う物件が出てきたため、工期のずれが発生し、その影響が現出する可能性が出て来ています。しかしそれは短期間の事で、中部地区では当初より来年2月～4月の建て方の物件は多く、シャープ堺の2期工事関係も動き出すようですので、ずれた物件と共に、4/4期はかなりの物件需要が出るために、素材の供給状況により稼働状況が左右されますが、繁忙となる予定です。

(中部鋼鉄・加藤一修)

東 海 (書面参加)

一 服 感

7月、8月、の猛暑も幾らかやわらいで、秋の訪れを感じさせるころとなりました。暑い最中、第90回高校野球大会、そして北京オリンピック大会と楽しみの多い毎日に喜びを感じております。

郷土(三重)の野口みずき選手は、ケガでマラソン欠場と悔やまれましたが、女子レスリングの吉田沙保里選手が、五輪連覇を成し遂げ、大いに喜びを与えてくれました。

さて、8月に入り仕事の方は、少し一服感があります。お盆休暇を延長したわけではないのですが、春先のメーカーの価格値上げが拍車をかけ材料の確保(特に中板の幅広サイズ)に四苦八苦。母材価格の急騰にも、何とか遅れまいと販売価格転嫁に努めてはきましたが、7月頃より需要が冷めてきているせいか、足踏み状態であります。

スクラップも7月末より急激に下がり、数日の間に15千円以上落ち込み、それほど悲観的にはみていないまでも波が高過ぎないでしょうか。商いには価格の浮き沈みは付きまとうにしろ、じっくりと現状を見据えていたいものです。

(萩野メタルワークス・萩野稔)

大 阪

急激な状況変化に戸惑い

建材シャヤーのうち、大手と一部の中堅シャヤーはシャープ堺を中心に大阪駅周辺の再開発でそこそこの仕事を抱えており、年内にはパナソニック姫路の工事が始まることから特に悲観的なムードはない。

反面、7月の建築着工面積が改正建築基準法施行前の水準に回帰しているという統計が発表されてはいるが、中小シャヤーにとっては建築切板の動きは今ひとつといった感がある。大阪支部の2～3の組合員からは8月の仕事量が減少して苦勞しているという話も出ている。

ミルメーカーからの材料手当てについては、何とか必要な材料の補充は出来ているが、材料の入荷遅れや板厚50～100mmの品不足に苦勞しているという話も聞こえる。材料の仕入れ価格の上昇に伴う切板への価格転嫁も一

部のファブを除いて、店売りユーザーなどでは仕事量が少ないこともあってなかなか浸透しにくい状況になっている。

ここに来て、スクラップ価格の急激な下落と東京製鉄の製品価格の値下げ発表で市況の上昇ムードに水を差された形になっていて、中小シヤーにとっては歩留損が大きな問題になっている。仕事も少ない、販売価格も通らない、スクラップは高く売れないといった三重苦が現実に見られることからシヤーの経営もかなり厳しくなることが予想される。

(J F E 鋼材・藤澤憲司)

大 阪

一 喜 一 憂

6月度は前月まで続いたスクラップの上昇に歯止めがかかり、需給バランスが安定するであろうと思われたが、前月までのメーカー値上げの影響から非常に厳しい状況であった。

新規物件の予算と現状の流通価格の差がまだまだ大きく、メーカーロールへの投入を最優先に検討しているため一般市中に出てくる物件が少なかった。

7月度は新日鉄の値上げ通達と電炉の電炉夏季休業による積極的な購買姿勢により再びスクラップ価格が上伸。今年度の最高値を更新した。

しかし一般店売りに関しては建機・造船を除いて購買意欲も低く受注活動に苦慮した。

本来ならば、メーカー値上げを受けて売価へ転嫁したいところだが、それ以上に顧客先への売り値が上昇せず、短期間の価格是正は非常に困難な状況下であった。

8月度はスクラップに関しては一転下落、最終的には2008年2月のレベルまで値下がりした。原因としては、引き続いた価格上昇に輸出向けが商談折り合わず国内向けに転換してきたこと、偶然ではあるが、月初めから各

電炉メーカーのトラブルが続き荷止め状態になったことが挙げられる。

一般店売りも夏季休暇をはさみ膠着状態から脱しきれず、スクラップの下落と東鉄値下げをうけて、売価上昇の動きも止まりつつある。

全般にみて、各一般店売りシヤアの稼働率は90%強とまずまずの結果であったが、従前の小口・小物の比率が下がり、スポット的な物件で各月凌ぎきった様子である。

従って、安定的な受注状況とは言いがたく、毎月一喜一憂している。

また、鋼板メーカーは過去にない増産体制を維持しているにもかかわらず、輸出・造船・建機への恣意的な注力は、われわれ一般シヤアにとって仕入れ価格の増大と大幅な物量カットという形で大きな脅威となっている。これまでは価格是正がまずまず客先には容認されているが、今後これ以上の大幅な価格上昇は果たして受け入れられるのであろうか？

一方では品質や書類の取扱い・トレーサビリティなどから、国内規格品を客先から求められるようになってきている。

現状のメーカー建値と販売価格の値差では健全な経営を維持することはますます厳しくなっており、価格転嫁に向けての活動を客先にアピールするとともに、特約店・流通・小売などの商流を再度見直して適正な価格体系を再構築する必要があると思える。
(玉造大阪・椿下卓司)

九 州

母 材 高 騰 が 圧 迫

5月以降、荷動きは月を追って悪化し、切板市況も横ばいの状況が続いている。大型建築物はそれなりにあり、造船、橋梁の支給材の仕事は継続的に出ており、指定シヤアは大半フル稼働の状況。その反面、中小建築物は材料費高騰による再見積り、遅延、取り止め等多くなり2次シヤアの仕事量

『市場情報-2008年9月号』

は減少している。一部高炉メーカー、電炉メーカーは厚板価格を8月契約より再値上げの発表をしているが、切板価格への価格転嫁は当面非常に困難な状況となっている。

〔建築〕九州地区の5、6月の建築着工統計は下表の通りで依然前年比大幅減少が続いている。ただ、昨年6月20日に建築基準法が改正され、昨年の5、6月は駆け込み申請で数字が高くなっており、前年平均との比較ではRC造、S造ではプラスになっている。いく分申請、審査の基準等が浸透しスムーズになってきたと思われる。ただSRC造は大幅に減少しており、今後BHの減少など厚板シャヤーの仕事量は期待できない内容となっている。

また九州地区の建材枠の大幅削減、納期の長期化、遅延で工程の混乱、スポット材購入での採算悪化も出ている。直近のスクラップ価格の急落がシャヤー業者の採算に大きな打撃を与えてゆく要因となってきた。今後粘り強く、切板価格の転嫁を進めていくことが求められている。

九州地区建築着工統計推移

(単位：千m²/月)

	H19年度	H20年度		H20年	
	平均	5月	前年同月比	6月	前年同月比
R C 造	381	403	-23.5%	486	-34.6%
S R C 造	52	0	-99.8%	21	-77.0%
S 造	564	531	-15.5%	618	-39.0%
着工面積計	997	934	-25.2%	1126	-41.9%
鉄骨所要(推定)	59	53	-21.3%	63	-40.7%

今後の案件としては、大分キャノン/トナー棟(6千トン)、日本鑄鍛鋼製

鋼工場（2.4千トン）、日立造船中型エンジン工場（4.6千トン）、冷泉町ビル（3千トン）等があるが、今年末以降の物件は不透明で今後が不安な状況となりつつある。

〔橋 梁〕 高炉メーカーの橋梁厚板枠の削減の問題はあるが、羽田沖プロジェクトは21年2月まで継続し、全般的に下期へビーの状況で、今後も橋梁は大手シェアの稼働に貢献していくと思われる。

〔自動車〕 北九州の自動車生産台数は2007年度に110万台を突破した。2008年度に域内の年生産能力150万台の達成はほぼ確実になっている。しかし生産台数の6割強を輸出するトヨタ九州が主力の北米市場の原油高、サブプライムローンの影響で減産に追い込まれている。同社で生産する4車種（レクサス等）合計の6月販売台数は前年同月比31.1%減少している。派遣社員を800人削減し、1台58/秒だった生産ペースは8月から1台75/秒に落ちている。

今後関連業者への影響が懸念されている。

〔造 船〕 九州地区の造船所は豊富な受注を抱え依然フル稼働の状況。増産目的の設備投資も進み、増産体制は整いつつある。高炉メーカーは造船所向け厚板の供給には最大限重点を置いているが、今年下期は来年の新日鉄大分の高炉改修に伴うスラブ備蓄等の影響は避けられず、材料確保と材料価格高騰が問題となっている。

（豊鋼材工業・嶋津邦夫）

4. 木村副委員長のまとめ

個人的な所感を言わせていただければ、強いシャー軍団になるためにどうするか。まず①当業界は単なる流通業ではなく、もっと高い付加価値を求めべき業界である。②下請け企業としてよりステータスを向上させるためにも、どんどんメーカー・商社をプッシュし、ユーザーにしっかり説明しよ

う。③将来投資のために、若い優秀な従業員を雇う必要がある。そうした視点に立ち、適正加工賃の確保、そして再投資といった循環の中で、良い企業群に仕上げていきたいと思う。スクラップ価格の高低に一喜一憂してばかりではダメ、本業の経営体質を固めるのは今しかない、大手シャーは特に毅然として業界の牽引役を果たしてゆくべきだ。

5. 高木理事長の感想

皆さんの報告の中身も地域・業種ごとに色模様が前回と違ってきているようだ。経済同様、当業界も潮目を迎えている。価格構造が変わり、収益構造も変わる中で、一体シャーの適応力はどれほどなのか、シャーの付加価値はどの位か、改めて突き付けられている気がしている。品質証明の問題についても、3～4年後もファブとシャーが建築分野で生き延びてゆくためには避けて通れない課題が多い。シャーとしてやるべきことはやるが、これには手間がかかる。コストがかかる。その環境作りもしつこくフォローしていきたい。

((参考) ≡ 出席者 ≡ (順不同敬称略)

酒 匂 委員長

木 村 副委員長

高 木 理事長 (ゲスト)

吉 里 総務委員長 (〃)

高 田 生産性委員長 (〃)

臼 井 品質保証分科会主査 (〃)

北海道 西 村 (玉 造 株)

東 北 湊 (J F E 鋼 材)

新 潟 多 村 (藤田金属)

東京	池田	(ニューエイジ)
	井沢	(富士鉄鋼センター)
	角田	(三ノ橋鋼材)
	秦	(丸東興業)
	安西	(山惣熔断)
	青柳	(青柳鋼材興業)
	菊地	(神鋼鋼板加工)
	福原	(村山鋼材)
東海	吉住	(J F E 鋼材)
	鈴木	(鈴木鋼材)
	加藤	(中部鋼板)
大阪	藤澤	(J F E 鋼材)
大阪	椿下	(株玉造)
九州	嶋津	(豊鋼材工業)
事務局	柘野	

6. 次回開催予定

第139回市場委員会

12月11日(木) 11:30～

於 大阪「ラマダホテル」